

現代社会への
提言

池田和夫

はじめに

本書は、扱うテーマが十四に及び、ことわざから始まり、死、幸福、愛など哲学的なこと、労働、金、中央銀行、租税、拡張拡大、社会主義など経済的なこと、憲法、立憲主義、自衛など政治的なこと、最後は医学まで多岐にわたっている。いささか脈略がないように見えるが、現代社会のあるべき姿を探究し、今の世を少しでも良くしたいという思いが本書を上梓した目的である。とりわけ、「十 日本国憲法の誕生」では、全体の三分の一以上を占め、日本国憲法は世界の英知を結集したたまものであることを知っていたら、日本国憲法は世界に誇れる素晴らしいものであると再認識してほしい。

出版にあたって、青山ライフ出版の高橋範夫社長と編集部の宮崎克子さんにはお世話になり、感謝します。

二〇一七年四月十九日

池田和夫

現代社会への提言◆目次

はじめに	3
一 「上杉謙信、敵に塩をおくる」のウソ	11
二 働く意味	13
(一) 働くとは？	13
(二) 労働観の変遷	14
(三) 結語	23
三 死を擱 ^{つか} む	25
四 金銭感覚を磨く	30
五 幸福とは	35

六 渡辺淳一『失樂園』(上)(下)(一九九七年、講談社)を読む……………

37

七 日本銀行の使命は通貨価値の安定である……………

39

(一) アベノミクスの登場……………

39

(二) 黒田東彦はる日本銀行総裁の「異次元の金融緩和策」……………

44

(三) アホノミクスの末路……………

48

八 公平な税制をめざして……………

55

(一) 租税の課税原則は、公平を基準にし、応能負担原則にしたがう……………

55

(二) 消費税は廃止する……………

56

(三) 受取配当金、租税特別措置の見直しと金融取引税の導入を！……………

57

(四) 法人税二三・四%の見直しを！……………

62

(五) 国籍ベースで所得課税するシテイズンシップ課税の導入を！……………

64

(六) 個人所得税はすべて確定申告制に！……………

66

九 格差拡大の是正策……………68

(一) 格差拡大、貧困の実態……………68

(二) 格差縮小の処方箋……………74

十 日本国憲法の誕生……………79

(一) 問題の所在……………79

(二) 日中戦争、太平洋戦争の簡単な素描……………80

(三) 日本国憲法の成立過程……………85

(四) 結語……………99

(五) 日本国憲法……………100

(六) 文部省『あたらしい憲法のはなし』……………140

十一 立憲主義とは何か……………144

(一)	絶対王政時代	144
(二)	イギリスの市民革命	145
(三)	立憲主義と自民党憲法改正草案	147
十二	集団的自衛権の本質は自衛ではなく、侵略である	152
十三	科学的社会主義とは何か?	156
(一)	問題の所在	156
(二)	科学とは何か?	157
(三)	哲学とは何か?	158
(四)	世界を根本から捉えるには	159
(五)	社会と歴史をどう捉えるか	161
(六)	資本主義社会の特徴	162
(七)	二七の社会主義に御用心	165

(八)	マルクスの社会主義論とその誤り	169
(九)	結語にかえて	174
十四	日本伝統医学のあゆみ	177
(一)	中国古代医学	177
(二)	日本医学の誕生	181
(三)	日本伝統医学のめざすもの	183
《参考》	黒にんにくの抗がんパワー	187

現代社会への提言

一 「上杉謙信、敵に塩をおくる」のウソ

一九六八年（昭和四三年）五月八日の読売新聞連載小説、八切止夫「ノンフィクション・ノベル 戦国意外史第一話 謙信は男か（7）」で、「善光寺檀那寄進過去簿」と、いうのによると、『姫川街道より信州へ出荷されていた越後西浜塩を、信州塩座の商人が甲州へ又売りして利得夥しくあげ、楼門一、軒廊二を寄進』とある。これは永禄十年（一五六七年―筆者註）に武田信玄が、義元死後（一五六〇年、織田信長が桶狭間の戦いで今川義元を討ちとった―筆者註）の今川を侮り、そこからきていた嫁を離縁して戻し、夫である吾子の義信まで殺したのに今川が怒って北条と共に、『塩留』をもつて国交断絶した時の事である。ところが謙信は、北条と交戦中だったから、塩留の仲間入りすることもなく、逆に『これは儲かるぞよ』と越後彌知谷塩座の商人を督励して、おおいに輸出させただけの話にすぎない」

といわれる。

人はみかけで判断すると間違うことがあるように、昔のことわざだから全て正しいとは限らないことを肝きもに銘めいじるべきだ。可愛いわが子に試練を与えて成長させることわざとして『太平記』に獅子はわが子を干尋せんじんの谷（深い谷）に突き落とす、はい上がってくる者のみを育てるといふ俗言がある。しかし、実際はライオンの母親はそんなことをせず、愛情深く大切に育てている。要は、簡単に信じないことだ。

二 働く意味

人はなぜ働くのだろうか？ 働かなければ生きていけないから、働くのだろうか。この素朴な疑問に答えを得るために、これから働く意味を考えたい。

(一) 働くとは？

働くの語源は、本来止まっていたものが急に動くことを表し、そこから体を動かす意味となった。労働の意味で用いられるようになったのは鎌倉時代からで、この意味を表すために「人」と「動」を合わせて「働」という字が作られた。

働くには、①仕事をする②労働する③機能する④活動するの意味がある。以上は、インターネットの『語源由来辞典』による。

働くとは労働であると一般的に考えられているが、労働とは何だろうか。英語では労働を labor といい、苦役とか骨折^{ほねおり}、仕事という意味がある。つまり、労働は生きるためのやむをえない仕事という意味が強い。これに対して、労働、仕事、努力、作品という意味を持つ work には、labor と違い、マイナスイメージがなく、自由な活動という意味が強い。つまり、労働には苦役 (labor) と自由な活動 (work) の二つの意味が混在していることになる。

(二) 労働観の変遷

①古代ギリシャ(ギリシャポリス〔都市国家〕の発展が始まった紀元前八〇〇年頃からローマに併合される紀元前一四六年まで)

カール・ヤスパースは、「ギリシャ人はあらゆる肉体労働を、つまらぬ人間のすることとして軽蔑した。彼らにとって完全な人間は貴族であり、労働せず、^{かんか}閑暇を持ち、政治を動か

し、闘技に明け暮れ、戦争に参加し、精神的に作品を生み出す人間である」(カール・ヤスパース『歴史の起源と目標』「ヤスパース選集」一九六四年、理想社、重田英世訳、二〇八ページ)と捉えている。現実には、古代ギリシャでの奴隷労働や被支配植民地の人々の労働によつて各ポリスの貴族や自由民達に消費物資を調達して彼らを支えていたのに、支配層はそのような側面を無視し、労働を卑しいものとして蔑視していた。

②キリスト教とイスラーム教の労働観

片倉もとこ氏によると、「アードムは、禁じられていた木の実を食べたがゆえに、それまでのエデンの園での自由な楽しい生活から追放され、死ぬまで食物を得るために労働することになった、つまり労働は神からの呪いのろである」(片倉もとこ『イスラームの日常世界』一九九一年、岩波書店、一八一ページ)といわれ、「(イスラーム教の―筆者註)労働が神か